

令和3年第3回燕市議会定例会  
一般質問日程表

質 問 日		質 問 者			質 問 方 式	
					一括質問	一問一答
9月7日(火)	午前	1	小林 由明 議員		○	
	午後	2	柴山 唯 議員		○	
		3	樋浦 恵美 議員		○	
		4	齋藤 信行 議員	○		
8日(水)	午前	5	柳川 隆 議員		○	
		6	渡邊 広宣 議員		○	
	午後	7	田澤 信行 議員		○	
		8	長井由喜雄 議員		○	
9日(木)	午前	9	大岩 勉 議員		○	
		10	タナカ・キン 議員		○	
	午後	11	宮路 敏裕 議員		○	
		12	堀 勝重 議員		○	

令和3年第3回燕市議会定例会「一般質問表」

発言 の 順序	発言 する 議員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
1	小林 由明 (一問一 答方式)	1. 水道の塔 について	(1)水道の塔の 今後につい て	<p>①燕市旧浄水場配水塔（通称「水道の塔」）について、大改修にかかった費用と、保存のために現在まで要した経費、国県などからの財政的支援や、市民などからの寄付金について伺う。</p> <p>また、水道の塔大改修後、その保存によって市にもたらされた利益、活用の可能性、そして水道の塔を取り巻く現在の議論の状況について伺いたい。</p> <p>②現在の議論を踏まえた水道の塔の今後のあり方について、具体的な考えや、動きが示されるのはいつか。そのスケジュールについて伺いたい。</p> <p>③水道の塔については、保存する必要性を見出せないという声が多くを占めていると感じる一方で、文化財として後世に残すべきという声も聞かれるところである。</p> <p>実物を保存するのではなく、VR（Virtual Reality：仮想現実）や、AR（Augmented Reality：拡張現実）といった先端技術を用いて文化財として活用しながら保存していくということも検討すべきと思うが、市の考えを伺いたい。</p>
		2. 除排雪に ついて	(1)効果的効率 的な除排雪 について	<p>①大雪の際、工業団地一帯では車両のスタックなどで頻繁に渋滞が発生している。また、凍結した轍がいたる所に生じてしまい、車体の揺れから積み荷に傷が付くなど事業者をはじめ多くの方から、物流や交通に大きな支障が出ているという声が上がっている。市はそうした状況をどのように捉えているか伺いたい。</p> <p>②消雪パイプのある道路上へ雪を捨てる行為は、積雪時においては日常の光景になっているが、道路における危険防止の観点などから、道路上への雪捨ては法律に基づく新潟県道路交通法施行細則により禁止されている。道路交通法で罰則も設けられ、行政として市民の安全のために、道路上への雪捨てを禁じる呼びかけは必要である。</p> <p>一方、家屋連たん部等堆雪敷が確保できない地域において、こうした規定を厳守すれば、屋根からの落雪などを含む建物出入口付近の公道上の雪についても、どこにも捨てることができず、歩道歩行者の安全や市民生活に大きな支障が生じるのが実際である。特に歩行者を含む通行量の比較的多い、堆雪敷のない地域の道路上への雪捨て問題について市の考えを伺いたい。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
1	小林由明 (一問一答方式)	3. 庁用自動車について	(1)市役所業務における車両の管理、運営、運行について	<p>①庁用自動車は、日常業務における職員の移動に使用されるだけでなく、風水害、豪雪、地震等災害時の市内各所の状況把握や、通行止め等の交通整理、避難所担当職員や支援物資の輸送等にも欠かせないものであり、市民の安全安心を支えるためにも必要不可欠なもので、常に良好な状態を維持するとともに愛護節約が求められるべきものと考えている。</p> <p>市は庁用車両の維持管理と物品愛護、職員の運転マナーなどについてどのように向き合っているか伺いたい。</p> <p>②健康増進法の一部を改正する法律が全面施行され、学校・病院・児童福祉施設等・行政機関の庁舎等以外の施設でも原則屋内禁煙となっている。</p> <p>職員に健康上の影響を与えかねない車中での喫煙について、庁用自動車の運行においてはどのようにされているか伺いたい。</p> <p>③スノータイヤの状態や、管理についてはどのようにしているか伺いたい。</p> <p>④庁用自動車運行中の事故の頻度、原因、市民からの苦情について伺いたい。</p>
		4. 中高生の声をまちづくりに	(1)燕庁舎における学習室の開設について	<p>①燕庁舎はエキチカマチナカ施設であり、中高生から「学習室として利用させてほしい」という根強い要望が続き続けている。</p> <p>今冬以降の学習室としての開放について、市の考えを伺いたい。</p>
2	柴山唯 (一問一答方式)	1. 燕市の今後の学校教育について	(1)小規模校の今後の在り方について	<p>①平成28年1月の「次世代の学校・地域」創生プランにより、「地域につくられた学校の応援団」である学校支援地域本部等の体制を基盤として、地域学校協働本部への発展が進められている。</p> <p>従来の地域が学校を支援するという一方向の活動から、学校と地域住民が共に地域の課題を解決する活動や、地域の行事に学校も参画して、共に地域づくりに関わるというような多様な取り組みが実施されている。</p> <p>また、昨年4月から小学校の学習指導要領が改訂され、「社会に開かれた教育課程」を基本理念とし、主体的・対話的で深い学びを実践し、これからの社会を生き抜く資質や能力を育み、地域や社会教育と共有・連携していくことが求められている。その実現のために、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールの一体的推進が必要とされている。本市での現状を伺う。</p> <p>②地域学校協働活動と、コミュニティ・スクールの推進について今後の方針を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言 の 順序	発言 する 員	質問項目 (大項目)	質問要旨 (中項目)	具 体 的 な 内 容 (小 項 目)
2	柴山 唯 (一問一 答方式)	1. 燕市の今 後の学校教 育について	(1)小規模校の 今後の在り 方について	③オランダの「イエナプラン」を導入した日本初の小学校が長野県にできた。また、広島県では公立校として設立されるなど、導入や研究が広がっている。 イエナプラン教育とは、個々を尊重しながら自律と共生を学ぶ教育で、個性の尊重や対話を重視した指導が行われている。異年齢による学級構成で、子供たちの集団をできる限りありのままの社会の反映として捉え構成することを重視している。個別の適応指導が必要な子供はもちろん、すべての子供にとって、他者との協働や個別の指導計画を選択できるイエナプラン教育は、新学習指導要領が目指すものにも当てはまり、高い効果も期待できると考えるが、これに対する見解を伺う。また、本市において、イエナプラン教育の導入や、今後の研究の可能性について伺う。
		2. 全天候型 児童遊戯施 設について	(1)子育てにお ける遊びの 場の意義	①ハンディキャップのある子供たちがいる家庭では、子供が気持ちよく、また、保護者が安心して遊ばせることがなかなか難しい現実がある。 そこで昨年、日本初のインクルーシブパークが東京都世田谷区、豊島区でオープンした。今回、児童遊戯施設を新設するにあたり、地域のどんな子供でも楽しめる施設にするべきと考えている。 公園が媒体となり、遊びを通じて今まで関わることのなかった子たちとの交流が生まれることは、お互いの成長にとって良いことだと考えられる。市内の他の公園も含めてユニバーサルデザインや、インクルーシブデザインといった性格付けや特色を持たせてみてはいかがか。 ②県内にも燕市が考えているような遊戯施設はある。その中で今回の施設の独自性をどう考えているのか。
		3. 燕市の防 災について	(1)妊産婦・乳 幼児のため の避難所に ついて	①近年、地震や水害など災害が多い。避難所等での生活を余儀なくされている被災者の方々については、心身の健康への影響が生ずることが想定される。特に、妊産婦や乳幼児に対しては、関係機関が連携して健康管理に配慮した支援などを行うことが重要である。燕市の災害時における妊産婦、乳幼児に対する現状の取り組みについて伺う。 ②現在、本市が指定している福祉避難所の多くは、高齢者施設、障がい者施設であり、妊産婦、乳幼児を対象とした施設ではない。いくつかの自治体では、東日本大震災の教訓を踏まえ、要配慮者として妊産婦、乳幼児など対象別に、きめ細やかに福祉避難所を指定する取り組みを始めている。安心して避難するためにも、妊産婦など専用の避難所を定め、発災直後に開設すべきと考えるのがいかがか。

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
3	樋浦 恵美 (一問一答方式)	1. 災害対策について	(1) 避難行動要支援者への対応について	<p>①災害時の迅速な避難支援を強化するための改正災害対策基本法が、本年5月20日に施行されました。災害時に支援が必要な災害弱者といわれる高齢者や、障がい者ごとの個別避難計画の作成を市町村の努力義務とすることとなっています。本市、避難行動要支援者の個別避難計画の策定状況について伺います。</p> <p>②地域における避難行動要支援者への支援体制を、どのように考えるか伺います。</p>
			(2) 避難所へのコミュニケーション支援ボードの設置について	<p>①コミュニケーション支援ボードとは、伝えたいことをわかりやすく、イラストと文字にして目的別にしたものです。障がい者、外国人の方などが避難所で過ごすときに、情報を伝えやすくするための大切なツールであると考えます。避難所へのコミュニケーション支援ボードの設置について、本市の考えを伺います。</p>
		2. がん患者への支援について	(1) AYA世代のがん患者支援について	<p>①AYA世代とは、思春期及び若年成人とされ、おおむね15歳から39歳の年代を指します。進学や就職、結婚・出産といった人生の転機を迎えるAYA世代にとって、将来への不安は計り知れません。本市では、AYA世代に対する相談支援はされているのか伺います。</p> <p>②がん治療前に将来、子どもを妊娠、出産できる可能性を残すための妊孕性(にんようせい)温存療法は、保険適用外のため高額な費用がかかります。費用の一部を助成することで、AYA世代のがん患者が希望を持って治療に取り組めると考えます。厚生労働省は43歳未満の男女を対象に、妊孕性(にんようせい)温存療法への助成制度を4月から開始しました。本市として情報提供などどのように考えているのか伺います。</p>
4	齋藤 信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 小中学校の教育課題	(1) 小中学生の読解力向上について	<p>①2018年に行われたOECD(経済協力開発機構)のPIISA調査(学習到達度調査)により、日本は15歳の参加諸国の中で順位を大きく下げ、子供の読解力低下が話題となった。また、同じく2018年発行の国立情報学研究所所長の新井紀子氏の著書「AI vs. 教科書が読めない子どもたち」では、AIの限界と日本の中高生の多くが中学校の教科書を正確に読めていないことが明らかにされ、教育現場のみならず経済の現場に衝撃を与えた。</p> <p>読解力は本に親しむことで身に付くものと言われてきたが、先のPIISA調査や、新井氏の著書で指摘された子供の読解力の課題は、そう単純なものではないと言われている。今年度、燕市では読解力向上に向けた取り組みが始まったと聞くが、この取り組みでは読解力をどのように捉え、何を狙うものであるのか改めて伺います。</p> <p>②先日、教職員対象の研修として新井紀子氏の講演が実施されたと聞いた。この研修を通し、各学校は現在、読解力に関する課題をどう捉え、どう向き合おうとしているのか現状を伺います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
4	齋藤 信行 (一括質問一括答弁方式)	1. 小中学校の教育課題	(1) 小中学生の読解力向上について	③ 読解力向上の取り組みを通し、子供たちが読んで分かる・理解できるようになったとしても、その理解が定められた答えを導くにとどまり、自分なりの考えや行動が伴わないようでは、燕市が目指す「生きる力がみなぎる子供」の育成にはつながらないと考える。 学校での読解力向上の取り組みは、文章の内容を読み取るスキルを使い子供が考え、課題を解決する「過程」を重視し、子供の生きる力を育成できるものと期待するが、教育長の所見を伺います。
		2. 農政について	(1) 市の農業に対する関わり方について	① 市はいろいろと形を変えて農業に対する支援をやっていますが、今後の支援のあり方や課題について伺います。 ② チャレンジファーマーについては、最初のころと最近では年代が若者にシフトしているように思えるが、現状を伺います。 ③ 支援にもいろいろあると思いますが、農業者とのギャップもかなりあると思います。後継者も少ない中で今後の農業に対する支援は、個人、法人によって違いもあると思いますが、今後どのような方向で進むと思われるのか伺います。
		3. 感染症の中での検診について	(1) 新型コロナウイルス感染症の中での検診について	① 新型コロナウイルス感染症の中で、今年の検診はどうだったのか。また、課題はあるのか伺います。
			(2) 新型コロナウイルス感染症の中での健康寿命の取り組みは	① 新型コロナウイルス感染症の中で、今までの生活と変わったなどいろいろ話を聞くが、市の取り組みで、事業として「できた」、「できない」などあったと思います。現状を見て今後の課題を伺います。
5	柳川 隆 (一問一答方式)	1. 教育委員会の行っている事業について	(1) 第2次燕市子ども読書活動推進計画のこと	① 推進計画では、図書館における読書活動の推進、未達成の指標がひとつあるが、それはどのような理由によるのか伺う。また、学校図書館図書標準を小学校は令和3年度、中学校は令和12年度までに達成する目標になっているが、直近の実績を伺う。 ② 「学級文庫パック」の直近3か年の実績と、「燕市生涯学習人材バンク」への直近3か年の登録実績を伺う。 ③ 「ブックスタート事業」と「赤ちゃんタイム」の活動実績と、「カンカンBOOK事業」、「福服BOOK事業」の直近の実績を伺う。 また、「図書館を使った調べる学習コンクール」と平成30年度から開始した「読書大賞」の実績、及び、「スタディパック」と「ブックトーク」の実績を伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
5	柳川 隆 (一問一答方式)	1. 教育委員会の行っている事業について	(2) つばめ子育て応援カード事業のこと	①資料では、協賛店は2月24日現在で42店舗となっているが、直近の協賛店舗数を伺う。 ②協賛店増加のために、どのようなことを企画しているのか伺う。 ③協賛店のメリットとしていただいたチラシには、①「子育て応援カード協賛店」として市のホームページ等で紹介することによりイメージアップ、②新規顧客(子育て世代)の獲得の2点が載っているが、このほかのメリットについて伺う。 ④協賛店の利用実績について、把握できる仕組みになっているのか伺う。
6	渡邊 広宣 (一問一答方式)	1. 人口減少社会の政策について	(1) 燕市の人口動態について	①燕市の人口動態の推移と、計画の乖離の認識と分析について伺う。 ②人口減少における多角的対応策、具体的子育て支援策について伺う。
			(2) 生産年齢人口推移と労働生産について	①出生数の減少は、将来の生産年齢人口に直結する。一般的に生産年齢人口と、経済の実質成長率は相関関係にあると言われる。燕市の現状認識を踏まえ、それに対応すべき施策を伺う。
			(3) 人口減少に伴う都市政策について	①人口減少に伴うまちづくりの社会資本、人口集約策等具体的方向性について伺う。
		2. コロナ禍における行動指針について	(1) コロナ禍における行動指針について	①Withコロナの新常態生活下において、社会経済活動はさまざまな行動制限を受けている。だが、国力と地域活性化のため、適正な対策・方針と行動指針で市民生活、学校生活、経済活動を営まなければと考える。燕市が市民・事業者に対して求める、行ない得る具体的施策について伺う。
7	田澤 信行 (一問一答方式)	1. イノベーション拠点施設開設支援事業について	(1) 事業者採用経緯について	①本事業は、国の地方創生テレワーク交付金(令和2年度補正予算)を財源として、燕市の令和3年度予算に計上されましたが、市民に対する広報活動はいつ、どのように行ったのか伺います。 ②本事業の募集期間は、4月14日から5月14日の1ヶ月間で非常に短い期間だと思いますが、申請内容・条件などについて伺います。
			(2) 事業内容の詳細について	①本事業の目的について、内閣府では「新型コロナウイルス感染症の拡大を契機に国民の意識・行動の変容が見られることを踏まえ、地方でのサテライトオフィスの開設やテレワークを活用した移住・滞在の取り組みなどを支援することにより、地方への新しい人の流れを創出し、東京圏への一極集中是正、地方分散型の活力ある地域社会の実現を図る」とあります。 燕市でも本事業を《定住人口増戦略》に位置付けておりますが、燕市としての具体的な数値目標があれば伺います。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
7	田澤 信行 (一問一答方式)	1. イノベーション拠点施設開設支援事業について	(2) 事業内容の詳細について	<p>② 今回採用された3事業者(団体)のオフィス開設後の事業活動について伺います。</p> <p>③ 本事業が展開されることによって、燕市の産業に与える影響をどのように捉えているか伺います。</p>
			(3) オフィス開設後の支援などについて	<p>① 本事業に関連した支援事業として、「サテライトオフィス等進出支援補助金」があるとありますが、人口増戦略として捉えた場合、他に支援となり得る補助金制度などがあれば伺います。</p> <p>② 今回の事業は、燕市の産業活性化に繋がる新たな可能性を秘めていると考えています。DX社会を推進するにあたって、サテライトオフィス拡充の必要性を感じますが、来年度以降の予算化を検討しているのか伺います。</p>
		2. スケートボードの環境整備について	(1) スケートボードの練習環境について	<p>① TOKYO2020オリンピックで新競技として採用された「スケートボード」が、日本人選手の大活躍もあり、オリンピック終了後、子供たちを中心に競技に対する関心が高まっています。</p> <p>しかし、スケートボードの練習場が全国的にも少なく、燕市内にもありませんが、どこで練習すべきと考えているかを伺います。</p> <p>② 三条市は、令和2年度「ミズベリング三条事業」の一環として、スケートボード場(900㎡)の新設を約10,000千円の予算をかけて令和3年4月に竣工しました。竣工後の来場者は、ばらつきはあるものの、1日10名前後の来場者もあり、オリンピック後は30名前後まで増えた日もあると伺いました。</p> <p>燕市としてもスケートボードを青少年の健全育成や、スポーツ振興として位置付ける考えがないのか伺います。</p> <p>③ スケートボードはアスファルト上で行いますので、一般的には舗装された広場・駐車場や、道路を利用することになります。つまり、スケートボードを推進するには「練習場としてのスペース」を確保(区分け)する必要がありますが、その点についての見解を伺います。</p>
			(2) スケートボード場の新設について	<p>① スケートボードの練習場として、ふれあい広場、さくら公園、産業史料館の駐車場が候補地になるのではないかと思います。仮に産業史料館の駐車場でスケートボードの練習風景があることを想像すると、県道68号線(燕分水線)から非常に目立つため、産業史料館への誘導効果の可能性があると思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>② 今後の「燕市スポーツ推進計画」にはスケートボードや、ボルダリング、さらにはeスポーツなど新しいスポーツを地域として推進できる環境整備に取り組んでいただきたいと考えています。とりわけスケートボードは、安全面からも環境整備が必要であり、多少の器具を装備したスケートボード上の新設を早急に取り組んでいただきたいが、いかがでしょうか。</p>



発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
8	長井由喜雄(一問一答方式)	1. 新型コロナ対策について	(1) ワクチン接種促進と大規模検査をセットで	<p>① 燕市の感染者は200人を大きく超える深刻な状況となっている。最大級の感染者数を毎日更新する中で、政府分科会や知事会が外出抑制やロックダウンの検討を求めているが、首相は耳を傾けていないように思える。感染封じ込めに対する市長の考えを伺う。</p> <p>② 若年世代の感染が著しいが、燕市の12歳から64歳の接種状況に対する市長の評価はいかがか。</p> <p>③ 大規模なPCR検査を実施し、無症状の感染者を早く見つけて治療・保護することが感染拡大防止につながるのではないか。市長の考えを伺う。</p> <p>④ 感染経路不明者が燕市においても増えているのではないか。直近の状況と対策についての考えを伺う。</p>
			(2) 守るべき命をどう守るか	<p>① 国は感染拡大、医療ひっ迫という状況の中で、感染者の自宅待機を打ち出している。県の感染症対策会議では「従来の方針に変更なし」としているが、県内の感染拡大で病床がひっ迫すれば、政府と同様の方向を示すのではないか。市民である感染者が、入院が必要にもかかわらず自宅療養を強いられることにもなりかねない。市長の考えを伺う。</p> <p>② 自宅療養の燕市での現状はどうか。症状急変で命を落とす人もでる中、24時間の看護、診療、健康観察が必要だ。体制拡充について自治体首長も関係者と協議する必要があると思うがいかがか。</p> <p>③ 新型コロナウイルス感染症対策アドバイザリーボードが、「全国各地で、災害レベルの状況にあるとの認識での対応が必要」との認識を示した。市長はどう認識しているか。</p> <p>④ 感染拡大を抑えるには、家庭内感染の防止、旅行の自粛、学校や職場などでの感染防止徹底が求められる。今以上の対策と徹底にどう取り組むか伺う。</p>
		2. 子育て・教育の家計負担軽減について	(1) 子どもの医療費助成の拡充について	<p>① 新潟県内では子どもの医療費助成について、入通院とも高校卒業までというところが27自治体に拡大している。こういう中で、一部負担金についても子育て支援、負担軽減の観点から一部負担金分を補助する自治体が増えている。燕市においても全額補助を目指し、助成の拡充を求めるがいかがか。</p>
			(2) 保育や学校での給食費の無償化について	<p>① 保育施設においては、一部の「保育料の無償化」に伴って、別立てで給食費負担が始まった。小中学校での給食費についてもその負担が小さくない。子育て支援と家計負担軽減の観点から無償化を求めるがいかがか。</p>
			(3) 国保における子どもの均等割の廃止について	<p>① 国保税の負担については協会けんぽなどと比べ、負担が約2倍と大きなことに加えて、子供にまで均等割の負担がかかるなど、差別的な保険制度となっている。国もこの認識に立ち、来年度から就学前児童について均等割の2分の1助成をスタートさせる。燕市においては子どものうち何人が対象となり、金額はいくらと予想されるか。子どもにかかる均等割の廃止を求めるがいかがか。</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
9	大岩勉 (一問一答方式)	1. 市長の政治姿勢について	(1) 衆議院選挙に対する市長の応援体制について	①新潟県の衆議院選挙2区の国政与野党4人の立候補予定者に対する応援を、市長はどのように考えているのか伺う。 ②厳しい選挙戦が予想されますが、政治家である燕市長として風見鶏のような態度をとることなく、「一意専心」剛毅な姿勢をとるべきと思うが市長の考えを伺う。
			(2) オリ・パラリンピックが、燕市にもたらしたものはなにか	①燕市は、今の時代にアスリートから多大な希望がもたらされたと思われるが市長の考えを伺う。 ②市内小中学生徒には、何事にもあきらめないうで頑張る多くのことを教えてもらったのではないかと。
		2. 燕市が所有する遊休財産施設の活用について	(1) 起業を目指す若手経営者支援を	①開業率が全国最低レベルに沈む新潟県と言われています。人材を育て、企業が次の企業を生む産学官を挙げた取り組みが活発な方向に向かっていると聞きますが、燕市としての取り組みの現状を伺う。 ②統廃合で使用しなくなった燕市所有の施設を、若手の企業を目指す人や団体に貸し室として利用してもらうなど、起点としての提供は考えられないか伺う。 ③燕市は交流・応援・活動人口増戦略をうたっているが、目的達成のための新しい試みを検討されているのか伺う。
			3. マイナンバーカード取得率向上に向けた取り組みについて	(1) 燕市のカード交付率について
10	タナカ・キン (一問一答方式)	1. 燕大賞について	(1) 燕大賞について	規定によれば、「スポーツ、教育、芸術、文化または科学技術等の分野において特に顕著な成績又は成果を収めたものに対し、その功績をたたえ顕彰することを目的とする」とある。 燕大賞は「スポーツ・教育」「芸術・文化・科学技術」の2部門で、今年2月6日に吉田産業会館で受賞式が行われている。 ①・・・等の分野においてとあるが、2部門にあてはまらない分野で功績があった市民は受賞の対象になるのか伺う。 ②いつから実施しているのか伺う。 ③「スポーツ・教育」部門はなんとなく分かるが、「芸術・文化・科学技術」部門で受賞された人の功績について伺う。

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
10	タナカ・キン (一問一答方式)	2.市の文化財について	(1)登録有形文化財について	<p>燕市の日本基督教団燕教会の木造教会堂に、文化庁から登録番号が刻印された登録文化財プレートが届き、8月18日に同教会で、山田教育長から田中弘子牧師に登録プレートの伝達が行われた。</p> <p>①現在、市における登録有形文化財の数と内容について伺う。</p> <p>②その他の国・県・市指定の文化財について伺う。</p> <p>③歴史的な価値のある建物である。今後、児童たちには見学を通して社会教育に役立ててもらいたいが伺う。</p> <p>④これを契機に市の文化財マップを作成してはどうか伺う。</p>
		3.「終活」ガイドについて	(1)「終活」ガイドについて	<p>①先月、父が93歳で亡くなった。親が突然亡くなると、家族はいろいろな手続き等でてんでこ舞いである。私は、そういう事務手続きが大の苦手であるから、現在、途方にくれている。</p> <p>そういう人たちのためなのか、書店に行けば「終活ガイド」なる本が多く見られるようになった。しかし、こんな本を買って親に読んでと言っても、場合によっては親子の仲が険悪になることもある。自治体が発行してるとなれば少しは違うと思う。</p> <p>現在、「終活ガイド」を発行している自治体もある。燕市でも他を参考にして「終活ガイド」を作成してはどうだろうか。もちろん、ネーミングを考えてのことであるが伺う。</p>
11	宮路敏裕 (一問一答方式)	1.コロナ禍、小規模事業者をとりまく問題と支援について	(1)消費税インボイス制度の問題について	<p>①インボイス制度(適格請求書等保存方式)について、コロナ禍での問題点について認識を伺う。</p> <p>②周知と支援について伺う。</p>
			(2)国民健康保険事業施策について	<p>①国保傷病手当金が事業主を対象除外としている問題について伺う。</p> <p>②この手当金を事業主も対象とする自治体もあるが、本市で検討すべきと思うが、認識を伺う。</p> <p>③国保税コロナ特例減免の3割減収要件について、国基準には前年比収入減少見込みに各種給付金を含まないとあるために、要件が非常に厳しいという声があるが、認識を伺う。</p> <p>④この減免について、独自の基準を設けて対象拡大した自治体もあるが、検討すべきでないか認識を伺う。</p>
			(3)燕市飲食店等事業継続支援金について	<p>①支援金要件に市税等の完納とあるため、申請できない事例があるのではないか。現下の支援として問題はないのか認識を伺う。</p>

(次ページへ続く)

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
11	宮路敏裕(一問一答方式)	2. 高齢者、障がい者福祉施策について	(1)加齢性難聴問題について	<p>①高齢者の認知症などの予防にコミュニケーションを図ること、その手段としての補聴器の活用が助けになること、特にコロナ禍で重要と思うが認識を伺う。</p> <p>②県内でも補聴器購入助成を実施している自治体があるが、目的や効果など実施状況を把握しているか伺う。</p>
			(2)特別障害者手当制度について	<p>①周知方法と、例年の申請状況について伺う。</p> <p>②他自治体の事例では、申請にあたり障害状態が手帳で明らかな場合には医師の診断書を省いたり、支給開始月を申請前の障害者手帳取得時まで遡る事例が見受けられるが認識を伺う。</p>
12	堀勝重(一問一答方式)	1. 行財政運営について	(1)市が契約している委託業務の実態について	<p>①市では、各部署において、新型コロナウイルスワクチン接種の受け付け、消雪パイプの稼働前の点検、下水路の維持管理、地域包括ケアシステム業務委託等々、さまざまな業務委託をされております。特化して、上記4つの業務委託の具体的な内容と管理監督の実態について伺います。(下水路の維持管理については、1例で結構です)</p> <p>②上記4つについて、業務委託が適正に行われているかをどのように確認されておられるのか、各々伺います。</p> <p>③市が契約して実施している業務委託の全体の件数と総額について伺います。</p> <p>④委託先へは業務内容が的確に伝わり理解され、誠実にされているのか、履行時の現場確認や書類等は適正に作成されているのか伺います。</p> <p>⑤業務委託に対する認識について、あらためて市の考えを伺います。</p> <p>⑥業務委託の市の管理監督責任について、どうあるべきなのか伺います。</p>
		2. スポーツ施設の整備について	(1)スケートボード練習場整備について	<p>この夏に東京オリンピックが開催され、日本人選手が金メダルをはじめ、多くのメダルを獲得したことは記憶に新しいことと思います。今回、新種目となったスケートボード競技でも、男女とも金メダルを獲得し、マスコミにも大きく取り上げられました。現在、新潟県内でもスケートボードの人気は高まっており、燕市でも100人余りの競技者や愛好者がおられ、また、市内在住のプロのライセンスを取得されている方が指導にあたっておられると聞いております。</p> <p>①当市のスポーツ施設は、着実におおむね整備されてきているものと認識しておりますが、とりわけスケートボード競技は、競技者や愛好者が競技基準に沿った練習をする場所が市内に無いのが現状であります。スケートボード競技者や愛好者も同じ燕市民であり、同じスポーツ競技者や愛好者であり、公平性という観点から鑑みて、直ちにではなくても、この先、当市にスケートボード練習場を整備していくことは重要な課題であると捉えております。このことについて、市の認識と考えを伺います。</p> <p style="text-align: right;">(次ページへ続く)</p>

発言の順序	発言する議員	質問項目(大項目)	質問要旨(中項目)	具体的な内容(小項目)
12	堀 勝重 (一問一答方式)	2. スポーツ施設の整備について	(1) スケートボード練習場整備について	②一つの提案として、財源の有効活用と官民協同の観点から、今後、練習場整備のまずは第一歩として、公共施設の統廃合に合わせ施設を再利用していくことや、市内企業と連携を図りながら、空き倉庫や空き工場の再利用など、その公共施設や空き家倉庫工場を練習場の館とする方向で確保に向け、取り組んでみてはと思いますが、市の考えを伺います。
		3. 教育行政について	(1) 中学校の部活動における「外部指導員制度等」について	令和2年12月定例会での一般質問で、部活動外部指導員制度等の運用等については、外部指導員が実際に指導にあたる前に、教育委員会が開催する研修会、又は講習会を受講してから現場に入ること等、市教育委員会も学校長と連携を取っていくことが重要である旨の質問に対し、答弁では「部活動の在り方については、非常に重要なポイントであり、部員の自主性を育み、成長を願うもの。勝利や技術の向上のみならず、内面の成長を資するものでなければならないと捉えている。今後、教育委員会としても妥当な形になるよう検討してまいりたい」とのことでありました。 ①その後どのような検討をされ、どのような形にされたのか伺います。 ②今一度、中学校の外部指導員制度について、市教育委員会の役割等認識について伺います。
		(2) 「いきいきスポーツクラブ」について	①「いきいきスポーツクラブ」の認識について、あらためて伺います。 ②「いきいきスポーツクラブ」における教育委員会の役割と、今後の方向性等について伺います。 ③「外部指導員制度の運用」と「いきいきスポーツクラブ」を踏まえ、燕市の中学校の部活動に対する考えを伺います。 ④燕市の中学校における部活動のあるべき姿と今後の方向性について、教育委員会の考えを伺います。	